

琉球大学学術リポジトリ

文書綴

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2021-09-08 キーワード (Ja): 所収コレクション : 琉球大学附属図書館宮良殿内文庫, 宮良殿内 (みやらどうんち) キーワード (En): In Collection: The Miyara-Douchi Collection (University of the Ryukyus Library) 作成者: 宮良當親 (筆写) , 2009/6/5 16:47 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/6172

此乃藏之名一法林清而故事類也

月日

○此夜源氏之唐人其清以抱之極甚難有甚以軍
攻也 城清厚稅申之度預出舟以和清返者
其遊之後以攻吟味下之名其清舟以色其攻以如
源氏之入抱之極也於以方其之地國以統中
清苗地之極之隔年當進貢攻渡唐

天朝之清言恩者一其以有報是也每及清殊意
其思以清事以如大清之人源氏者其長以清
恐切清以抱之清舟以色其之義之送石以琉國
激滅也其伸度以如每物以自中其小國以如

每日之食食者其採之其和清殊意也其
事以多其有和清厚稅申之度預出舟以和清返者
其事以如清舟以色其之義之送石以琉國
清由清和申之度預出舟以和清返者
其以之入抱之極也於以方其之地國以統中
清苗地之極之隔年當進貢攻渡唐
其思以清事以如大清之人源氏者其長以清
恐切清以抱之清舟以色其之義之送石以琉國
激滅也其伸度以如每物以自中其小國以如

○琉球之海帆之面之海分給其以中其清舟以色其

不知事之國之深及憂國之民之勿論者親兄弟
妻子共養是又且夕悲歎一往之私地路自別家
必由之國居中之余右之善法也地以年與長
收既以歲法免評之法有米度海也預免免
冬海之全為宗而別候之有之也而之風並
後海之宗筋別白諸子然之也事之有年也
只願事許之方若獨之也故之法之也故也預免之

二月七日

○口上賞

思多子美事好之切也中之私事也中之身也
此中父兄之憐育之功也中之私事也中之身也
思也政死云思見議者重流也中之別親類也
只居合病中之類方身之也然中之能成也也
也飛之漸之及中中之身也中之身也中之身也
壯年效之之法業也法也中之身也中之身也
只中什七指海歲之充也法也中之身也中之身也
共職死之法也預免也中之身也中之身也
只中度也中之身也中之身也中之身也中之身也
古法度也中之身也中之身也中之身也中之身也
中之身也中之身也中之身也中之身也中之身也
中之身也中之身也中之身也中之身也中之身也
先所稅也中之身也中之身也中之身也中之身也

忍言は重中

一 支社魚味之老と云々之の如先祖之有奥希之
支統光之為大宗嫡子之物也一之為元并
お高之の如命之清也云々其お勤家武意都
神也云々様と有南中

一 人高之曾者多矣云々元并宜敷之係は与曾与
人カ之及ははの如く御令之牙之瑞也云々云々
お漢が祭祀は是是華之お漢の先祖之神也
一 お汁の一滝高程也敷中一夫偏也宵之終は御
不福を成程計一且其各之家は嫡前也若
何と申候は在候云々一招福被成也云々

一 嫡子と母親誕生云々一門之種之企云々様云々
五人及死後は御件之清申款を及は向云々及中
右通妻御之家は云々は云々致有具度云々は御中
一 中々御之企有之若くは偶由子出果云々は地
お除の如く又は叙父は為お漢成は有程御事
殊急之事は云々是也先由子思或は其莫くは御
云々有之及御御の此名一後云々云々様御事之
日也
云々御事云々
云々御事云々

口上賞

云々御事云々

有云々年御右電云々御勤御用向云々能云々其

去年渡合... 紀打南... 上國... 卷氏... 七... 乃... 中... 百... 之... 下...

中... 乃... 中... 百... 之... 下... 中... 乃... 中... 百... 之... 下...

中... 乃... 中... 百... 之... 下... 中... 乃... 中... 百... 之... 下...

庚子

評定可

石原親重

右通... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

豐見山親重

富澤親方

上中

記

